

教えてはちくん!木づかい通信 Vol.11



大館市観光キャラクター

「はちくん」

※チェンソーマンVer.

テーマ

阪神・淡路大震災以降に 起きた大変化

～「見た目のよさ」から「安心・安全」へ～

WOOD CHANGE! TOPICS:

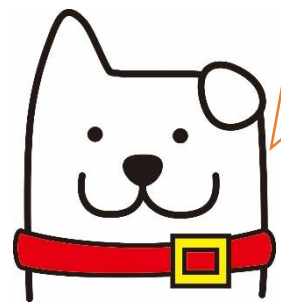
「キュージュー フランセーズ ラ シャンス(東京都江東区)」

令和4年2月
産業部林政課

本資料は林知行 著「目からウロコの木のはなし(技報堂出版、2020年3月)」を引用し、作成しています。

テーマ「阪神・淡路大震災以降に起きた大変化」

教えてはちくん!



1987(昭和62)年の建築基準法改正により、日本の木材関連業が新たな時代に入ったと思った矢先、1995(平成7)年に関連業界の情勢を大きく変えることになる「阪神淡路大震災」が発生しました。在来軸組工法住宅の大被害を目の当たりにしたことで、耐震性をはじめとする木造関連の研究が本格化し、木造関連業界はそれまでと比べてワンランク上の技術レベルに進化しました。しかし、その動きについて行けず、大打撃を受けることになったのが国産材関連業界でした。

「目からウロコの木のはなし、P139~141」



何が変わった??

もう少し詳しく

震災前…ニーズ:「見た目のよさ」



震災発生後…ニーズ:「安心・安全」

・国産材の大きなマーケットは在来軸組工法住宅の柱や梁、それも見栄えのよい化粧材を兼ねたような部材であった。

↓ 阪神淡路大震災発生! ↓



震災時に大被害を受けた住宅 ※林 知行 氏 提供

<木造関連業界>

- ・構造計算に用いる木材や木質材料の基準強度がきめ細かく設定。
- ・住宅の品質確保の促進等を目的とした法律(通称:品確法)が制定。
⇒木目の美しさよりも、くるいの少なさや強度性能の高さ、さらには品質の安定性といった「性能」を求めるように。

<国産材関連業界>

- ・大きな断面の柱や梁の人工乾燥技術はまだ完成されていなかった。
- ・強度品質の保証技術はほとんど普及していなかった。
- ・昭和30~40年代に植林されたスギが全国で使い頃に育ってきていた。
⇒国産材のマーケットが縮小し、供給能力が増していたため、価格がピーク時の3割程度まで低下することに。

⇒12月(Vol.9)から3回にわたって国内の木材利用に関する情勢の変遷を取り上げてきましたが、今もなお、国内に林業・木材産業が存在しているのは、大きな困難や変化に対応してきたからだと思います。現在の新型コロナウイルス等による大きな困難や変化にも果敢に対応していくことが必要だと改めて感じたところです。歴史(過去)から学ぶことはとても大切なことです。



■基本情報

主要構造:	木造 その他(木造ラーメン構造)
地域区分:	準防火地域
耐火等の要件:	耐火建築物 伊準耐火建築物(1時間) 伊準耐火建築物(45分) その他の建築物
延べ床面積:	2,588.65㎡
階数:	地上2階 地下0階
単位面積コスト:	278,000円/㎡
木材使用量:	623.02㎡
補助事業:	活用なし
主な使用樹種:	柱梁:北海道産カラマツ プレース:北海道トドマツ(湾曲集成材) 下地材等:秋田県産スギ、栃木県産スギ

～都市における木造建築の合理性と地方から大消費地への安定供給体制の構築～

豊洲ぐるり公園 パークレストラン キュージュー フランセーズ ラシャンス

豊洲市場に隣接する「豊洲ぐるり公園」内の“木造”のパークレストランについて紹介します。建物の一部に大館市産秋田スギが活用されています。

施主: [物林\(株\)](#) / 設計者: [\(株\)ジビキデザイン](#) / 施工者: [\(株\)ティンバースケープ](#)

レストランHP: <https://www.ikk-wed.jp/tokyo/restaurant/>

建設中 (2020年1月30日撮影)



完成後 (2020年12月21日撮影)



建設中 (2020年1月30日撮影)



完成後 (2020年12月21日撮影)







エントランス



ロビー



カフェスペース



応接室



応接室 (カラマツ・梁)



応接室 (ウォルナット・フローリング)



ランチ (美味!)



ランチ (ぜひご賞味ください!)

物林(株) (東京都江東区)・常務取締役 梶井 直和 さんに聞いてみた! (取材日: R4.1.19)

Q、貴社の紹介と今回の取り組みについて教えてください!

A、当社は大館北秋田地域林業成長産業化協議会(以下、「協議会」)※に参画しています。協議会での役割の一つに、大館市の木材をつなぐ「地産外商」があります。現在は首都圏のホームセンター向けを主に大館地域の木材を販売しています。

木材の消費は木造住宅の骨組みや屋根・壁・天井等の下地としての用途のウェイトが非常に大きいのですが、少子高齢化により住宅着工数は減少に向かい市場は減少傾向です。そこで、従来鉄骨などで建てられていた店舗や事務所・福祉施設などの「非住宅建築」を木構造で建てる「木造化」や内装に木を使う「木質化」を新たな市場として取り込もう!ということでの取り組みを進めています。

今回の建築は当社が建築主であり、子会社である「(株)ティンバースケープ」が施工業者(元請)となって進めた事業でしたが、当然ながら「地産外商」の非住宅木造建築に実践しよう、協議会でご縁のある大館市の秋田スギを活用しよう、となったのです。秋田スギは壁の間柱と屋根の垂木など下地材として活用しました。



かじい なおかず
梶井 直和 さん

Q、国産材活用に向けた今後の展望と、秋田県、大館市へのメッセージをお願いします!

A、当社は引き続き丸太から製材等木材製品の流通や木造建築等の事業を通して、国産材利活用を推進していきます。木材の様々な用途や市場を開拓し、消費地のユーザーを巻き込み、地域と消費地をつなぎ森林資源の循環促進と林業・木材産業の活性化に貢献したいと思います。

秋田県、とりわけ大館市は秋田スギの一大産地であり永続的な木材の安定供給を大いに期待しています。その豊かな森林資源を次世代につなぐために「伐る」「使う」「植える」という循環の輪を確実に広げ、主伐再造林先進地として全国の林業地域の模範となるよう、協議会を中心に地域の皆様と共に林業・木材産業を盛り上げていきましょう!